

九州生乳販連会報



No. **89**

January 2025

TOPICS

新年のご挨拶	1
酪農情勢報告	6
令和7年度生乳取引について	7
農林水産省 ランピースキン病について	8
令和6年度販売状況について	10
令和7年度畜産物価格及び関連対策の決定について	11
激甚災害にかかる見舞金のご報告	11
人事異動	11
特別寄稿 持続性のある酪農経営のために	12
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業お知らせとご報告	14
令和6年度会員別生乳受託販売数量	16
令和6年度受託生乳検査成績	16

新年のご挨拶



九州生乳販売
農業協同組合連合会

代表理事会長 **中村 隆馬**

明けましておめでとうございます。

酪農家並びに会員役職員の皆様には、旧年中も本会の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、正月元旦に発生した能登半島地震と9月の能登半島豪雨と度重なる災害が発生し甚大な被害が発生しました。九州においても8月には台風10号が九州に接近上陸し、牛舎・施設等の被害や生乳廃棄に見舞われました。また11月には国内初の発生となるランピースキン病が福岡、熊本で確認され、生乳出荷乳量の減少や家畜の移動制限、患畜の隔離、殺虫駆除などの対応に追われ、

大変なご苦労をされたと思います。台風で被害にあわれた皆様、感染された酪農家の皆様へお見舞いを申し上げます。

長く続いたコロナ禍を脱し、世界も国内も経済回復に向けた活動を活発化しています。日本においてもインバウンドはコロナ禍前まで回復し、観光地や商業施設等もインバウンドで溢れかえっています。インバウンド需要で国内消費を増やすことは国としては良い事かもしれませんが、一方では家畜伝染病の感染リスクが非常に高まっており、現に九州においてランピースキン病が国内初の発生となり、改めて酪農経営を守るために防疫対策の重要性を再認識させられたところです。ランピースキン病は、吸血昆虫(サシバエ、アブ等)を介して伝染するとされており、吸血昆虫のコントロールが非常に重要です。この冬場、吸血昆虫が活発化していない時期に、吸血昆虫の発生箇所や牛舎周りの潜伏箇所を徹底的に無くすことに全力で取り組んでいただきたいと思います。本会としても、会議等を通じて情報を共有していきたいと考えておりますので、自分のため、皆のためには是非とも積極的に取り組んで頂きますようお願いいたします。

我々酪農家の経営環境は依然として厳しく、飼料、生産資材、燃料等の生産コストは高止まりしたままです。一方で牛肉の消費減退から副産物価格も

下がったままで回復も見られず、ただちに経営が好転することは考えにくい状況にあります。

酪農乳業界もコロナ禍が長引いたことや脱脂粉乳とバター消費の跛行性から、脱脂粉乳の在庫が積み上がり4年度より生産者・乳業者・国が一体となって乳製品過剰在庫対策に取り組んでいます。在庫についてはピーク時からすると減りましたが、今後の消費如何によっては在庫の積み増しも懸念されるため7年度も継続して取り組んでいくこととなっています。

年末年始の加工処理については、北海道、東北、関東の生乳生産は前年以上に回復していますが、それ以外の地域では今夏の猛暑の影響で生乳生産が回復していないことや年末年始の天候も良く物流もスムーズにいったことから、全国的には処理不可能乳の発生はありませんでした。年度末の加工処理については、生乳生産の回復と消費動向によっては、処理不可能乳の発生も懸念されることです。

このような中、乳価につきましては九州酪農の存続のために3年間連続となる乳価値上げの申し入れを行いました。2回にわたって乳価値上げとなったにも関わらず、酪農廃業のペースは令和5年度と変わらないこと、コロナ禍時に借入した運転資金の返済がこれから始まる中に返済できるほど利益が得られていないこと、酪農経営環境は将来が見通せるほど好転していない現状について訴え、乳価値上げを要請しました。この挨拶を書いている時点では交渉の結果は出ていませんので、引き続き全国の他団体とも連携しながら乳業者に訴えていきたいと思いをします。

生乳販売においては、系統外の生乳流通の増加からその影響を無視できなくなっています。九州においても系統外の生乳で製造された牛乳が夏場の需要期に欠品し、その補填を九州域内の乳業者がさせられるといった影響を受けています。そして冬場の不需求期には系統外の生乳で製造された安価な牛乳が売り場に戻り、域内乳業者の製品が外されるといった影響を受けています。農水省主催の生乳の需給等に係る情報交換会では、不需求期に牛乳を安売りして需給調整するのではなく、系統内と系統外で平等に加工を発生させること、また乳製品過剰在庫対策についても系統内が拋出をして在庫を減らしているのに、系統外は拋出をしていない状況もあるので、

両者が平等に生乳の需給調整に取り組むべきと意見をしているところであります。

直近の九州の生乳生産量は、昨年度の猛暑による分娩の遅れと今年度の猛暑が昨年度以上に厳しく長引いたことや厳しい経営環境を反映して前年比97%前後で推移しています。24か月齢未満の頭数も減少しており、今後の生乳生産が停滞することも懸念されます。経営環境が厳しいなかですが、生産の効率化や防疫対策を含めた環境美化に取り組んで頂きますと、飼養環境が改善されることで乳量の増加も見込まれますので、是非とも取り組んでいただきますようお願いいたします。

7年度の畜産物価格については12月25日に決定しました。生産者補給金9.09円（前年度+0.17円）と集送乳調整金2.73円（前年度+0.05円）合わせて11.82円（前年度+0.22円）となり、交付対象数量は前年度と同じ325万トンとなりました。関連対策+18万トン（+0.08円/kg）と合わせて343万トン、11.90円となりました。一方で生産効率の改善を要件化したクラスター事業の復活、昨年度に引き続き国産チーズの生産奨励事業、脱脂粉の乳在庫低減対策事業が組まれ生乳需給改善に取り組んでいきます。

酪農理解醸成及び牛乳消費拡大につきましても、値上げによって消費が減少していますので、重要な取り組みだと考えています。酪農理解醸成については、酪農業についての情報を伝えることや酪農家の日常の暮らしや現状を伝え、消費者との距離を縮めることで応援しようという気持ちを醸成したいと思います。牛乳消費拡大については、牛乳売場でキャンペーンによる直接購買や牛乳はスポーツとは栄養面からみると親和性も高く、摂取する価値が高いことを訴求することで消費拡大につなげたいと思います。引き続き力を入れて取り組んでまいりますので、イベント実施の際には皆様のご協力をお願いいたします。

最後になりますが、役職員一丸となって信頼される指定団体を目指して頑張りますので、皆様方の一層のご理解とご協力、そして九州酪農の発展のためにご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。

新年のご挨拶



九州農政局長
緒方 和之

新年を迎えるに当たり、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

九州は、西日本最大の生乳の生産地域であり、その安定供給を担う皆様方には、平素から酪農関連施策の推進に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国の酪農をめぐっては、近年の国際情勢の不安定化や円安の進行等に伴う飼料、燃料、肥料等の価格高騰による影響が及ぶ中、令和4年から4回に渡り、飲用向け、乳製品向け乳価の引上げが実現されてきました。

一方、生乳需給は、ヨーグルト需要の低迷や製品価格の値上げ等の影響で、脱脂粉乳を中心に緩和傾向にあり、何ら対策を講じなければ在庫が積み上がる状況にあります。

このため、農林水産省として、令和6年度補正予算において、需給改善のための脱脂粉乳在庫低減対策を継続するとともに、国産牛乳乳製品の需要拡大対策や輸出拡大に向けた対策を措置したところで

す。今後、少子高齢化等により国内市場の縮小が見込まれる一方で、去年は外国人観光客数が過去最高と

なっており、インバウンド需要を更に取り込みつつ、成長が期待される海外市場を積極的に開拓していくことが重要です。

このため、生産者・乳業メーカー・輸出事業者が連携した「コンソーシアム」による生産から輸出までの一貫した輸出促進活動の支援等を引き続き実施してまいります。

また、持続可能な酪農を実現するには、輸入飼料価格等の外部要因に影響されない足腰の強い経営に転換していく必要があります。

農林水産省としては、耕畜連携や飼料生産組織への支援などによる国産粗飼料の生産・利用の拡大、長命連産性に重きを置いた牛群構成への転換等を一層進めてまいります。

昨年、食料安全保障の確保を柱とする改正「食料・農業・農村基本法」が成立しました。年度内をめぐり、新たな「食料・農業・農村基本計画」の策定に併せて、酪農及び肉用牛生産の振興・家畜の改良施策に関して政府が中長期的に取り組むべき方針を定める「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」及び「家畜改良増殖目標」の見直しを行うこととしており、現在、酪農・乳業を始めとする関係者の皆様から御意見を伺いながら検討を進めております。

令和7年度は、これらのマスタープランに基づいて、新たな政策を着実に実行していく初年度となります。

九州農政局といたしましても、引き続き、管内の関係機関の皆様と連携しつつ、現場での施策推進に全力で取り組んでまいりますので、御理解と御協力をお願い申し上げます。

九州の酪農乳業にとって、本年がより良き年となり、皆様方が一層御発展されますことを祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



新年のご挨拶

一般社団法人
中央酪農会議
会長 山野 徹



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

酪農家並びに会員の役職員、関係者の皆様におかれましては、日頃より本会議事業への格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和7年の新春を迎えるにあたり、年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、酪農経営は、昨今の地政学リスクの高まりによる飼料・燃料価格をはじめとした資材価格の高止まり、副産物価格の下落などにより、引き続き厳しい状況にありました。昨年10月には指定団体の受託農家戸数が1万戸を割り込むなど、高水準の離農も続いており、中長期的な国内生乳生産基盤の更なる縮小や、将来の生乳の安定供給が懸念される状況にあります。

一方、生乳需要は、飲用等向け処理量は当初予測ほどの落ち込みにはならないものの需要に力強さはなく、乳製品仕向け量は増加しました。乳製品需要

のアンバランスも解消には至らず、これらの問題に対し業界一体となった脱脂粉乳在庫対策や、広く国民、消費者の皆様酪農の現状を知っていただくための酪農理解醸成活動に取り組んで参りました。

また、国においては、持続可能な食料供給に向け適性取引が推進される仕組みの構築を目指す「適正な価格形成に関する協議会」や、指定団体外生乳流通事業者を含む関係者による「生乳の需給に係る情報交換会」において、生乳取引価格や需給調整負担等に係る諸課題に対し継続的な協議がなされてきました。これらを顧みれば、酪農にとって経営面、需給面、そして制度面など全方位に課題・論点の多い一年であったと言えます。

こうした困難な状況下においても、酪農家並びに会員の皆様は、高品質な生乳を生産し、牛乳乳製品を安定的に供給する使命を全うするべく、日々の取り組みに献身的に努められていると承知しております。

本会議におきましても、本年も酪農家並びに会員、関係者の皆様と共に力を合わせ、酪農業界の発展に尽力する所存です。課題の多い情勢ではありますが、酪農業は地域経済の基盤であり、環境保全にも大きく貢献できる産業です。その未来を守るため、我々の連携が新たな可能性を切り拓く原動力になると信じております。どうぞ本年も変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸、そして日本の酪農のさらなる発展を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

九州酪農政治連盟協議会
会長 宮本 貞治郎



新年、明けましておめでとうございます。

九州生乳販売農業協同組合連合会の役職員の皆様、九州の酪農家の皆様、並びに関係者の皆様におかれましては、幸多き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、当協議会の活動につきましては、特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

2025年の年頭に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

去年の酪農界を振り返りますと、「農政の憲法」と称される「食料・農業・農村基本法」が25年ぶりに改正され、食糧安全保障を「良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれを入手できる状態」と定義され、食料の価格形成に合理的な費用を考慮することを基本理念として位置付けました。農林水産省においても「適正な価格形成に関する協議会」を設置し協議を重ねており、酪農の持続性を確保する適正な乳価の実現に大いに期待するところであります。

一方、飼料・資材など生産コストの高騰や牛乳・乳製品の消費減退が酪農経営にも大きな打撃を与えており、離農に歯止めがかからずに全国の酪農家戸数は1万戸を割り込みました。九州の酪農家戸数も1千戸を切り生乳生産量は減少傾向となり、将来的には国産牛乳・乳製品の安定供給が困難になる可能性が懸念されます。

国内政治に目を向けますと、昨年10月1日に石破茂氏が102代内閣総理大臣に就任してから戦後最短となる8日後に衆院解散を宣言し、衆議院議

員総選挙が行われたものの自由民主党は大きく議席を減らしました。

石破政権の継続は決まりましたが、与党は過半数に届かない「少数与党」となり、野党の協力なしに予算を成立させることができず、この先の政局は極めて不透明な状況が続くことが予想されます。

かかる政局ではありますが、近年、農林水産大臣には自由民主党の九州選出議員で構成する九州酪政会の先生方が歴任されており、石破第二次内閣では江藤拓衆議院議員（宮崎）がその重責を担っておられます。九州の酪農家の皆様の声を真摯に受け止めていただき、様々な対策を実現していただく環境にあります。

当協議会においては、昨年7月の通常総会に貴連合会のご臨席を賜り、系統外生乳・製品の流通が需給調整を難しくしつつあり、酪農家間の不公平感に繋がっていることを説明いただき、日本酪政連「令和7年度酪農政策・予算確保に関わる要請」にて改正畜安法の運用改善を求めているところでございます。

また、昨年11月に発生したランピースキン病に対し、酪農生産者がより積極的にまん延防止対策に取り組めるよう「ランピースキン病に関わる緊急要請書」を九州酪政会の先生方に対して提出し、国の支援を強く訴えてきた所でございます。

当協議会としましては、今後とも九州・沖縄酪農の持続的発展に向け貴連合会、日本酪農政治連盟、九州・沖縄各県の酪政連組織などの関係団体と連携し、酪農経営が継続可能であり、かつ後継者が希望をもって酪農を継承し得る酪農支援策の実現を目指して国政・行政へ要請して行く所存で御座いますので変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、貴連合会、九州の酪農生産者の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



酪農情勢報告

1. 九州の生乳出荷戸数

令和6年12月の生乳出荷戸数は990戸で、令和6年3月時点の1,045戸と比較すると55戸の減少となり、本会が平成12年度に発足して以降、初めて1,000戸を下回りました。

2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

10～12月の乳用種雌牛飼養頭数は、23ヶ月令以下、24ヶ月令以上ともに前年を下回っており、特に23ヵ月齢以下の頭数は1割以上減と減少幅が大きく、総頭数も前年を4%程下回って推移しています（表1）。

表1 乳用種雌牛飼養頭数 (単位：頭)

	10月	11月	12月
23ヵ月令以下	23,445	23,368	23,356
	増減	-3,083	-2,618
	前年比	88.4%	89.9%
24ヵ月令以上	70,482	70,381	70,202
	増減	-1,159	-1,287
	前年比	98.4%	98.2%
総頭数	93,927	93,749	93,558
	増減	-4,242	-3,905
	前年比	95.7%	96.0%

注：Jミルクホームページより

9～11月の出生総頭数は、11月は前年を上回ったものの9・10月は前年を下回り、9～11月累計でも前年を下回りました。その内訳として、乳用種雄、交雑種は前年を下回り、乳用種雌は前年を上回りました（表2）。

表2 出生頭数 (単位：頭)

	9月	10月	11月	累計(9-11月)
総頭数	3,967	3,992	4,246	12,205
	増減	-240	-124	-152
	前年比	94.3%	97.0%	105.3%
うち、乳用種雌	1,013	1,003	1,009	3,025
	増減	4	90	105
	前年比	100.4%	109.9%	111.6%
うち、乳用種雄	375	383	353	1,111
	増減	-57	-31	-6
	前年比	86.8%	92.5%	98.3%
うち、交雑種	1,819	1,911	2,037	5,767
	増減	-125	-131	100
	前年比	93.6%	93.6%	105.2%

注：Jミルクホームページより

3. 生乳需給

(1) 生乳受託販売数量

10～12月の生乳受託販売数量は、戸数・頭数の減少に加え、昨夏の非常に厳しかった猛暑の影響が長引き、前年を3%下回る推移となりました。また、都府県も同様に前年を下回った一方、北海道は昨夏の暑熱の影響が少なく前年を上回りました。（表3）。

表3 生乳受託乳量 (単位：t、%)

	10月	11月	12月	累計(10-12月)
九州	42,744	42,315	44,634	129,693
	前年比	97.0%	97.0%	96.9%
都府県	232,825	229,373	239,864	702,062
	前年比	98.2%	99.3%	98.9%
北海道	326,713	315,899	330,576	973,188
	前年比	102.3%	102.3%	102.2%
全国	559,538	545,272	570,439	1,675,250
	前年比	100.6%	101.0%	100.8%

注：中央酪農会議 用途別販売実績（速報）より
注：公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

(2) 生乳販売状況

一昨年8月の乳価改定に伴う牛乳・乳製品の値上げから昨年8月で一巡して以降、徐々に需要の下げ止まりの傾向が見られ、10～12月の全国の利用別販売では脱脂粉乳・バター等向けを除く各用途が前年に近い実績となりました。

このような中、10～12月の九州の利用別販売では、域内飲用は前年を上回りましたが、域外飲用を含むその他用途は生乳生産量の減少に伴い販売を制限した結果、前年を下回りました。（表4）。

表4. 用途別販売数量 (単位：t、%)

	用途	10月	11月	12月	累計(10-12月)
九州	飲用	31,762	30,284	28,593	90,639
		前年比	97.9%	95.7%	97.2%
	はつ酵乳	7,448	7,134	6,164	20,746
		前年比	102.2%	101.2%	92.3%
	脱脂粉乳・バター等	1,594	2,308	7,263	11,165
		前年比	86.1%	96.9%	99.1%
	生クリーム	1,844	2,495	2,520	6,859
		前年比	77.6%	102.4%	97.9%
	チーズ	96	94	94	284
		前年比	100.3%	100.1%	129.9%

表4. 用途別販売数量（続き）（単位：t、%）

	用途	10月	11月	12月	累計(10-12月)
全国	飲用 (前年比)	260,820 98.8%	244,259 99.9%	229,671 99.1%	734,751 99.3%
	はっ酵乳 (前年比)	36,080 100.5%	34,282 99.5%	32,548 98.1%	102,910 99.4%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比)	122,248 109.8%	122,916 105.7%	164,440 102.4%	409,603 105.5%
	生クリーム (前年比)	107,931 97.2%	110,695 99.2%	107,291 101.9%	325,918 99.4%
	チーズ (前年比)	32,459 95.6%	33,119 100.5%	36,489 103.5%	102,067 99.9%

注：中央酪農会議 用途別販売実績（速報）より

4. 今後の生乳需給について

昨夏以降、九州の生乳生産はそれまでの水準よりも低い水準での推移が続いています。これには、生乳出荷戸数の減少、乳牛飼養頭数の減少に加え、昨夏の非常に厳しかった暑さの影響、また、ランピースキン病の影響も加わっています。ランピースキン病の今後の動向は不透明ですが、各県の懸命の対応の下、本稿を執筆している1月中旬において発症頭数は0頭となっており、本病の鎮静化が待たれます。

こうした生乳生産状況の中、需要については各用途とも比較的堅調であり、生乳需給は引き締まって推移しています。物価高騰による消費への影響が懸念され、今後も不透明な状況は続きますが、引き続き確かな需給調整と有利販売に努め、生産者の所得向上に繋がられるよう努めます。

令和7年度生乳取引について

九州生乳販連においては、「令和5年11月2日、第9回理事会・第2回生乳受託販売委員会」で「令和6年度生乳取引交渉」は、牛乳等の消費動向を見据え進むことを確認しました。

そして、「令和5年12月13日付、酪農経営維持・継続のための支援」（要請）文書を発出し、「酪農家の厳しい酪農環境は改善されず、廃業の危機にさらされているのだ」と訴えてきました。

令和6年度に入っても、廃業のペースは変わらず全国の酪農家戸数は、10,000戸を割り、九州の酪農家戸数も1,000戸を割り込んでいる実態は、経営環境が完全に改善されてないことを証明しています。

コロナ後も継続する酪農危機を乗り越える為、九州生乳販連も、令和6年10月3日発出文書にて、「令和7年度乳価値上げ交渉（要請）」に手を上げました。

酪農の経営環境を改善させて九州域内、域外の乳業メーカーの方々に安定して生乳（原材料）を届ける為にも、今回（3回目）の交渉に全力を傾注してまいります。



ランピースキン病の早期発見とまん延防止対策のお願い

2024年11月、国内ではじめてのランピースキン病の発生が福岡県で確認されました。この病気は、発症牛のほとんどが自然に治りますが、発症牛の生乳出荷や移動の自粛が必要となります。地域でのまん延を防ぎ、畜産経営への影響を最小限に抑えるため、健康観察による早期発見と自主淘汰、まん延防止対策をお願いします。

01 ランピースキン病とは

- 特性** 発熱、乳量の低下、皮膚に病変（結節）が生じる牛の病気
人には感染せず、畜産物の食用も安全
- 予防・治療** 致死率は低く、ほとんどの牛が徐々に回復する
有効なワクチンで発症予防できる
- 伝播経路** 主にサシバエ等の吸血昆虫を介して拡大
感染牛や車両、資材、人の移動でも拡大
- 影響** 発症牛の生乳出荷や移動の自粛



結節（全身性）



結節

結節

写真提供：FAO、State Central Veterinary Laboratory in Mongolia

! 疑わしい症状を見つけたら、すぐに獣医師又は家畜衛生保健所に連絡ください

02 生乳出荷・牛移動の自粛をお願いします

STOP

生乳の出荷

- 発症牛の生乳の出荷を自粛
- 非発症牛（同居牛）の生乳は出荷可能



STOP

牛の移動

- 発生農場からの牛の移動を自粛※1
- ワクチン接種牛は個別に自粛解除（下記参照）



ワクチン接種や発症から一定期間経過すると自粛が解除されます

発症牛：判定日から28日目より後に行う検査※2により陰性を確認

同居牛：農場内で最後に発症した牛の判定日から28日目より後に行う臨床検査で陰性を確認

ワクチン接種牛：接種から3週間経過後、臨床症状がないこと

※1：非発症牛（同居牛）のと畜場への出荷は可能 ※2：原則として血液による抗原検査、他の農場や家畜市場に移動する場合は皮膚による抗原検査

03 対策

✓ 早期発見とまん延防止（発生してしまった場合の緊急対策）

- 日頃の健康観察により**早期発見**し、発症牛の速やかな**自主淘汰**で発生源を断つとともに、発症牛の生乳出荷や発生農場の牛の家畜市場等への移動を**自粛**してください（病変が現れる前に発熱が見られることに注意）
- 面的に拡大してしまった場合は、速やかな**ワクチン接種**をお願いします

✓ 発生予防（発生を未然に防ぐための対策）

- 農場の**吸血昆虫を減らす**※3対策をお願いします
 - ・窓や出入口に防虫ネットを設置する、殺虫剤をローテーション散布する（成虫対策）
 - ・牛房の隅など牛が踏みつけない場所などにIGR剤を散布する（幼虫対策）
 - ・サシバエは牛舎周辺の雑草で休憩するため、雑草を刈る
- 農場間で**ウイルスを伝播しない**対策をお願いします
 - ・寒い時期はハエが暖かい車両に集まるため、車両内外の洗浄、殺虫をする
 - ・搬入出する牧草などにハエが潜んでいないか、確認する

※3: 特に、農場を中心に生活するサシバエへの対策が重要です。福岡県の発生農場では、サシバエの少ない農場内では感染拡大が抑えられていました。なお、特に冬前のハエ1匹は**来シーズンの1万匹**に相当すると言われるほど対策が重要です。



写真提供：住化エンバイロメンタルサイエンス(株)

04 支援策

01 まん延防止・ワクチン接種の推進

- 発症牛や発生農場由来牛を自主淘汰した場合の**再導入**への支援（乳用初妊牛・肉用繁殖素牛 60万円/頭）※4
- 出荷自粛中の生乳の適切な廃棄処分に係る費用への支援
- 農場の消毒や**吸血昆虫**対策への支援
- ワクチンの**無償配布**※5
- ワクチン接種の影響に関するリスクコミュニケーション
- ワクチン接種県（福岡県）からの輸入を一時停止した米国との協議を継続

02 経営支援

- 日本政策金融公庫の農林水産業セーフティネット資金の円滑な融通、公庫支店に相談窓口を設置
- 家畜疾病経営維持資金の対象に本病を追加
- 国から飼料関係団体に対する飼料代金の支払猶予の要請
- 円滑な生乳の出荷再開に向けた検査体制の整備
- 子牛の引き取り先・販路確保に向けた関係者間の調整

05 ワクチンの効果

- ランピースキン病には**発症を予防できる**ワクチンがあります

有効性

- ✓ 韓国では全頭へのワクチン接種以降、発生件数が**大幅減**※6
- ✓ 撲滅のために**最も有効なツール**として国際機関が推奨

安全性

- ✓ 海外で15年以上にわたり約3,000万ドーズ以上が使用され、重篤な副反応はほぼない
- ✓ 副反応として一時的な乳量減少や注射部位の腫れ、皮膚の結節等が見られるが、通常は自然に消失する
- ✓ ワクチン接種牛の生乳や肉を摂取することによる健康リスクは無視できる程度

- 国内ではMSD Animal Health社のワクチンを備蓄中

ワクチン接種完了前後のLSD発生状況（韓国）

発生期間		発生件数
接種完了前 (2023年)	33日間 (10/19-11/20)	107件
接種完了後 (2024年)	120日間 (8/12-12/9)	23件

※6: 2023年11月20日に全頭を対象とした接種が完了。2024年の発生をゼロにできなかったのは、一部にワクチン接種漏れがあったためと韓国政府は分析

令和6年度 販売状況について

用途別生乳販売実績

(単位 数量：t、前年比：％、単価：円/kg)

用途		10月			11月			12月			第3四半期計			年度累計		
		数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価	数量	前年比	単価
飲用等向け	域内飲用向け	24,505	100.5	135.016	21,953	100.0	134.743	21,992	101.6	134.497	68,449	100.7	134.762	210,704	97.4	134.620
	学校給食向け	4,489	104.0		4,146	100.9		3,257	106.2		11,891	103.4		30,346	99.2	
	域外飲用向け	2,993	75.1		4,376	75.4		3,519	72.1		10,887	74.3		39,868	90.4	
	飲用牛乳等向け計	31,986	97.9		30,474	95.7		28,767	97.2		91,228	96.9		280,917	96.5	
	はっ酵乳等向け	7,448	102.2		7,134	101.2		6,164	92.3		20,746	98.7		65,738	101.8	
	飲用等向け合計	39,434	98.6		37,608	96.7		34,931	96.3		111,974	97.2		346,655	97.5	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向け	1,620	85.7	96.188	2,365	96.8	95.429	7,366	99.1	91.609	11,351	96.5	93.519	33,010	109.1	94.871
	クリーム等向け	1,876	78.0		2,521	102.5		2,541	98.0		6,938	93.1		19,789	92.3	
	チーズ向け	96	100.3		94	100.1		94	129.9		284	108.4		840	101.6	
	特定乳製品向け計	3,592	81.8		4,981	99.7		10,001	99.1		18,573	95.3		53,639	102.1	
販売乳量合計		43,026	97.0	131.775	42,589	97.0	130.145	44,932	96.9	124.951	130,547	97.0	128.894	400,295	98.1	129.294

支払乳代

(単位 金額：千円、単価：円/kg)

項目	10月		11月		12月		第3四半期計		年度累計	
	金額	単価	金額	単価	金額	単価	金額	単価	金額	単価
基本乳代 ①	5,669,702	131.775	5,542,724	130.145	5,614,376	124.951	16,826,802	128.894	51,755,568	129.294
脂肪分加算金	36,790	0.855	41,758	0.980	58,101	1.293	136,648	1.047	342,988	0.857
無脂固形分加算金	44,100	1.025	48,547	1.140	58,919	1.311	151,566	1.161	392,075	0.979
成分加算金計 ②	80,890	1.880	90,305	2.120	117,019	2.604	288,214	2.208	735,063	1.836
季節別調整率 ③	105%	-	100%	-	93%	-	-	-	-	-
季節別調整金	283,485	6.589	0	0.000	-393,007	-8.747	-109,522	-0.839	967,555	2.417
調整後乳代 ④ = ①×③	5,953,187	138.363	5,542,724	130.145	5,221,369	116.205	16,717,280	128.056	52,723,123	131.711
販売手数料	17,252	0.401	16,899	0.397	17,194	0.383	51,345	0.393	157,472	0.393
生乳検査料	5,163	0.120	5,111	0.120	5,392	0.120	15,666	0.120	48,035	0.120
送乳経費	163,409	3.798	162,545	3.817	156,557	3.484	482,510	3.696	1,610,675	4.024
需要者負担額 (運賃補填)	-1,780	-0.041	-2,954	-0.069	-2,583	-0.057	-7,317	-0.056	-20,322	-0.051
CS・冷却費	45,860	1.066	41,823	0.982	58,477	1.301	146,160	1.120	427,776	1.069
集乳経費	116,549	2.709	115,054	2.702	121,388	2.702	352,991	2.704	1,081,358	2.701
プール費用 ⑤	346,452	8.052	338,478	7.948	356,425	7.932	1,041,355	7.977	3,304,993	8.256
差引乳価 ②+④-⑤	5,687,625	132.191	5,294,551	124.318	4,981,963	110.877	15,964,139	122.286	50,153,192	125.291

令和7年度畜産物価格および関連対策の決定について

加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金の単価、ならびに総交付対象数量が以下のとおり決定されました。関連対策については、令和6年度から対策の内容に変更は無く、単価改定が行われました。事業要件等の詳細は、今後説明会等が開催される見込みです。

加工原料乳生産者補給金単価等

	令和7年度	対前年差
加工原料乳生産者補給金	9.09円/kg	+ 0.17円/kg
集送乳調整金	2.73円/kg	+ 0.05円/kg
ALIC 事業（集送乳調整金相当） ^{*1}	0.08円/kg	+ 0.01円/kg
合計	11.90円/kg	+ 0.23円/kg
総交付対象数量	325万トン	± 0万トン
ALIC 事業 ^{*2}	18万トン	± 0万トン

*1 集送乳の合理化への支援

今後予想される将来の集送乳経費の上昇を先行的に抑えるために指定事業者が緊急的に行う合理化の取組に対して、0.08円/kgの奨励金を交付。

*2 バター・脱脂粉乳の需給の不均衡改善への支援

総交付対象数量を超過する場合、バター・脱脂粉乳需給の不均衡を改善するための取組を行う生乳流通事業者に対し、18万トンを限度として、対象数量に応じて以下のとおり奨励金を交付。

【5万トン】×補給金・集送乳調整金単価

【13万トン】×補給金・集送乳調整金単価×1/2

（13万トンは需要が見込まれるバター分のみ支援。実際の仕向け量が13万トンを下回る場合は、予算の範囲内で1/2の係数を1までの範囲で引き上げられる。）

激甚災害に係る見舞金のご報告

令和6年台風10号を含む暴風雨及び豪雨災害が激甚災害の指定を受けたことから、中央酪農会議「生乳需要維持のための災害対応要領」に基づき、生乳廃棄被害に対する見舞金が算出されました。

九州地域は廃棄生乳量14,800kgに対して398,327円の見舞金を受けましたので、廃棄量に応じて下記の通り会員へ配分いたしました。

この度の自然災害にて被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

1. 対象の自然災害について

（1）令和6年8月26日から9月3日までの間の暴風雨及び豪雨による災害

2. 見舞金の配分額について

（1）受入額 398,327円

（2）会員別配分 ふくおか県酪協 40,371円

鹿児島県酪協 357,956円

人事異動

氏名	配属	区分	発令日
川副 孝仁	検査部	退職	令和6年12月31日
蒲原 佑香	総務部	退職	令和6年12月31日

持続性のある酪農経営のために

— 指定生乳生産者団体が担う機能 —

一般社団法人中央酪農会議
専務理事 菊池淳志

1 酪農経営の状況

全国の指定生乳生産者団体（指定団体）に生乳販売を委託している酪農家の戸数（受託農家戸数）は、ついに1万戸を割りました。

令和3年度までは前年比▲3～4%台の減少で推移していましたが、令和4年度から減少率が高まり、令和5年度には▲7%を超える水準となりました。その後、若干緩んだとはいえ、令和6年度も依然として▲5%台の減少が続いています。この結果、令和6年10月の受託農家戸数は9,960戸となり、この5年間で約1/4の酪農家が減少しました〔令和元年10月は13,076戸〕。

この要因としては、①飼料など生産コストが急激に上昇したこと、②資材価格の高騰は生乳価格の上昇を上回り、高止まりしていること、③子牛など副産物収入が減少していることが挙げられます。

2 酪農衰退の問題点

このまま酪農家戸数の減少が続けばどうなるのか。中央酪農会議で今後の生乳供給量を予測したところ、令和10年度には、全国で700万トンを超える結果となりました。これは、脱脂粉乳ベースでみた生乳の需要量を下回る水準です。すなわち、現在は脱脂粉乳の在庫削減に取り組んでいますが、将来は、逆に脱脂粉乳の需要を賄うだけの生乳が供給できないことを意味しており、今後も国産の牛乳乳製品を安定的に供給できるか不安な状況となっています。

では、不足分は輸入すればよいとの考えもあるかと思いますが、世界的には人口が増加し牛乳乳製品の需要が増加する一方、主要国の生乳生産は、気象の変化や環境問題への対応などから伸び悩む傾向となっており、世界の生乳需給はひっ迫すると予測されています。従って、これまで通り海外から手当てできる保証はなく、今後、牛乳乳製品のような基礎的な食料はできるだけ自国で生産することが大切となっています。

また、酪農は安全・安心な牛乳乳製品を供給するばかりでなく、数多くの関連産業との繋がり、たい肥還元による循環型農業の担い手、耕作放棄地を活用した国土保全など大きな役割を果たしており、酪農の衰退は地域経済の崩壊にもつながりかねません。

3

生産基盤の維持・強化と生乳需給の重要性

このため、国内の生乳生産基盤を維持・強化する必要があります。しかし、厳しい経営環境に加え、借入金の償還や賃金の上昇なども求められる中、増産しようにも投資できる余裕がない状況であり、生産基盤の回復を図るためには、持続可能な価格形成など所得確保の取組みを進めていくことが重要となっています。

また、持続可能な価格を形成するうえでは、併せて生乳の需給調整をしっかりと行う必要があります。畜産経営の安定に関する法律の改正以降、生乳流通の多様化により自主流通量が増加しており、需給調整を考慮しない生乳の流通拡大が懸念されます。さらに、冬場の不需要期などに投げ売りされるようなことがあれば価格引き下げの圧力にもなりかねません。

生乳は栄養に富んだ優れた生産物ではありますが、毎日生産される一方、長期保存ができず、すぐに加工しなければならないという特性があります。酪農経営が安定し、今後とも持続性あるものとするためにも、こうした特性を持つ生乳の需給調整を適切に行い、最大限の利益を確保していくことが重要です。

4

指定団体の機能

指定団体は、加工原料乳生産者補給金や集送乳調整金を酪農家へ交付するほか、

- ① 日々変動する生乳生産や用途別の需要に対応し、生乳を廃棄せず売り切る、
- ② 多くの生乳量を取り扱い、指定団体単位で交渉することで乳業者との交渉力を強化する、
- ③ 酪農家の所在を踏まえ効率的な輸送ルートを設定し、集送乳コストを低減する、といった重要な機能を有しています。

また、このほか、生乳検査の実施など品質を確保すること、農薬使用等の記帳・記録の推進など安全安心を担保すること、消費者等へ酪農の現状や牛乳乳製品の価値などの理解醸成を進めることなど大切な取組みを行っています。

そして、こうした機能を有する指定団体に酪農家の方々が集結頂き、国内生乳の9割以上を占める共販体制が確立されています。それは、すべからく生乳特有の特性がある中で、生乳の需給調整や価格交渉力の強化などにおいて経済的な合理性を有しているからです。

生乳をどこに販売するかはもちろん自由であり、指定団体以外への販売は、短期的には共販に要する経費を節減できる、生産調整の取組みなどにとらわれず販売できるといったメリットがあるかもしれません。しかし、必ず全量を買ってもらえるか、条件不利地でも集乳してもらえるか、需給調整の負担は自身が負うことになるなどのリスクもあり、経営の長期的、持続的な安定のためには、指定団体への委託が様々な面でメリットをもたらすと考えます。

酪農家の皆様におかれましては、生産基盤の回復が求められる今、あらためて指定団体が担う機能や活動に対しご理解、ご協力賜りますようお願いいたします。

ミルクで応援プレゼントキャンペーン 2025

不需要期の牛乳の販売促進につなげる施策として、「ミルクで応援プレゼントキャンペーン 2025」を実施しました。

このキャンペーンは、1月11日（土）～2月8日（土）に九州内のイオン及び系列店舗（イオンスタイル、マックスバリュ、ザ・ビッグ、エクスプレス、ウエルシアプラス）の合計 261 店舗にて、キャンペーン対象の成分無調整牛乳を購入し、レシートを撮影して九州 LoveMilkClub の LINE 公式アカウントより応募した方の中から抽選で賞品をプレゼントするという内容です。

キャンペーン初日となる1月11日（土）にはイオンモール福岡にてイオン九州との合同記者会見を実施しました。本会からは中村隆馬会長が出席し、栄養豊富で美味しい九州産の牛乳をアピールされ、イオン九州の内田昌代上席執行役員と共にキャンペーンのスタートを大々的にアピールしました。

今回のキャンペーンの詳細につきましては下記特設サイトにて紹介していますので、こちらを是非ご覧ください。

『ミルクで応援プレゼントキャンペーン 2025』特設サイト↓

<https://kyuhanren.com/milk-de-ouen2025/>



牛乳川柳コンテスト 2025

年始という1年に思いを巡らせるタイミングで、牛乳・酪農をテーマにした「牛乳川柳コンテスト2025」を実施しました。このキャンペーンは、1月11日（土）～2月8日（土）にかけて牛乳・酪農をお題として投稿された川柳の中から「最優秀賞」「優秀賞」「入賞」を選び、それぞれの賞に応じた賞品をプレゼントするという内容です。入賞作品は本会のホームページやSNSで発表します。

投稿例

- ・胃が多い 牛うらやまし 新年会
- ・牛乳の ちがいが分かる しぶい二歳
- ・牛乳か ビールで迷う 風呂上り
- ・ハッピーに 今年も生きる 乳ソEAR



※上記は一例です。この他にも多数投稿されていますので、ぜひX（旧 Twitter）で「#牛乳川柳コンテスト2025」と検索してみてください。

令和6年度九州ミルク料理コンクールを開催します！

昨年度に続き、牛乳・乳製品を活用した料理の正しい知識の普及や、牛乳・乳製品を使った料理にチャレンジするきっかけ作りを目的として、第2回目の「九州ミルク料理コンクール」を開催します。現在応募された作品の書類選考中で、今後以下のとおり実技審査を開催し、優勝作品を決定していきます。

- ◆審査開催日 令和7年2月24日（月）
- ◆審査会場 福岡ホテル・ウェディング&製菓調理専門学校
- ◆選考方法 スイーツ部門・おかず部門それぞれに応募いただいた中から書類選考を行い、選ばれた方々と、本会会員からの推薦を受けた方で実技審査を行います。
- ◆審査員
 - ・本会代表者
 - ・濱中健一（福岡ホテル・ウェディング&製菓調理専門学校副校長、元ホテルオークラJRハウステンボス製菓長等）
 - ・窪津朋生（レストランテ Kubotsu 料理長）
 - ・山際千津恵（料理研究家）

これらのキャンペーン等の情報は本会のホームページ、Facebook、Instagram、X（旧 Twitter）でも随時紹介していきますので、是非チェックしてみてください。



＼九販連公式ホームページ・SNS アカウントはこちら！／

- ホームページ <https://kyuhanren.com/>
- Facebook <https://www.facebook.com/kyuhanren/>
- Instagram <https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/>
- X（旧 Twitter） https://twitter.com/love_milk_club

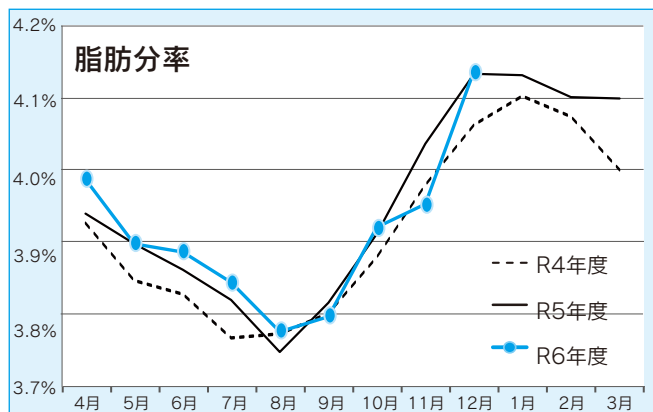


令和6年度 会員別生乳受託販売数量

(単位：t, %)

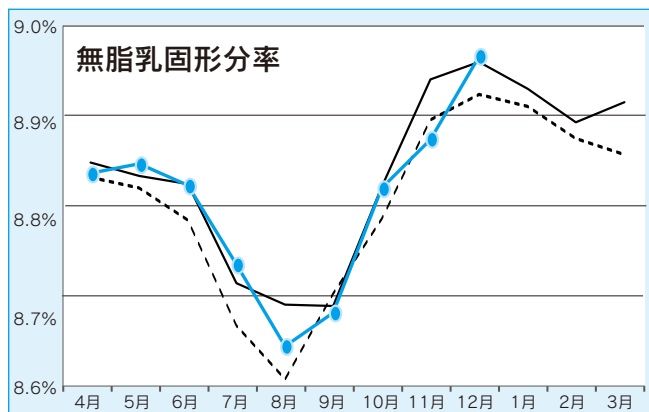
	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県経済連		鹿児島県酪協		合 計	
	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比
上期合計	28,805	97.5	5,645	97.6	15,101	98.6	123,776	99.7	31,930	96.8	34,111	101.9	30,379	94.0	269,748	98.6
10月	4,671	96.9	861	94.4	2,341	94.0	20,073	98.8	5,024	93.1	5,421	100.5	4,634	92.1	43,026	97.0
11月	4,566	95.3	894	98.1	2,366	97.2	19,735	98.0	5,071	95.1	5,364	100.9	4,593	92.0	42,589	97.0
12月	4,848	96.2	981	101.1	2,483	96.6	20,543	97.2	5,512	97.7	5,652	99.4	4,914	92.0	44,932	96.9
合計	42,889	97.1	8,381	97.7	22,292	97.7	184,126	99.2	47,538	96.3	50,549	101.3	44,520	93.4	400,295	98.1

令和6年度 月別受託生乳検査実績



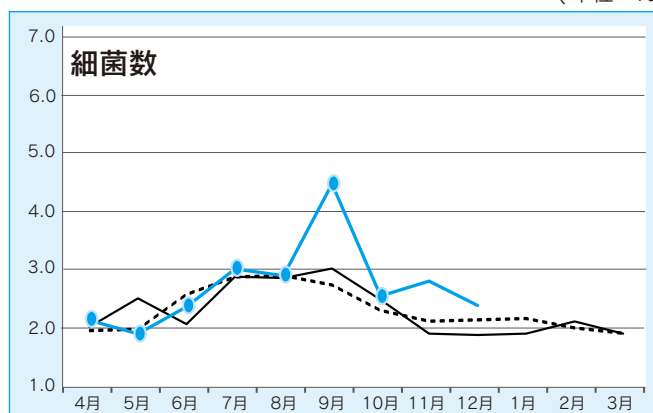
R4年度	3.94	3.87	3.85	3.80	3.80	3.83	3.90	3.99	4.06	4.10	4.07	4.01
R5年度	3.95	3.92	3.88	3.85	3.78	3.84	3.93	4.04	4.13	4.12	4.10	4.10
R6年度	4.00	3.92	3.91	3.87	3.81	3.83	3.93	3.96	4.13			

(単位：%)



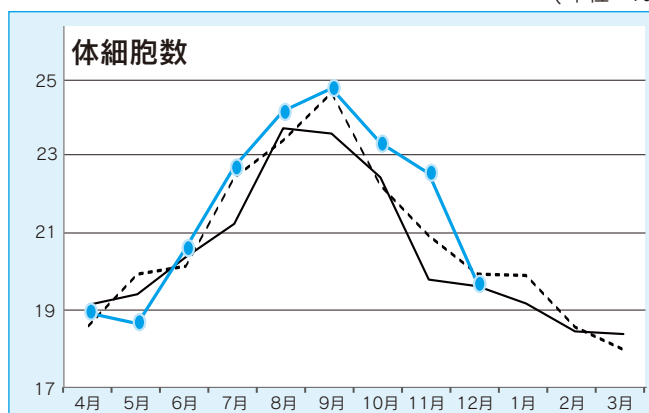
R4年度	8.83	8.82	8.79	8.68	8.62	8.71	8.79	8.89	8.92	8.90	8.87	8.85
R5年度	8.85	8.83	8.82	8.72	8.70	8.70	8.82	8.93	8.95	8.92	8.89	8.91
R6年度	8.83	8.84	8.82	8.74	8.66	8.69	8.82	8.87	8.95			

(単位：%)



R4年度	2.1	2.1	2.7	2.9	3.0	2.8	2.4	2.2	2.2	2.3	2.1	2.0
R5年度	2.1	2.6	2.2	2.9	2.9	3.1	2.6	2.0	2.0	2.0	2.2	2.0
R6年度	2.2	2.0	2.5	3.1	2.9	4.4	2.6	2.9	2.5			

(単位：万/ml)



R4年度	19.2	20.4	20.6	22.7	23.6	24.7	22.5	21.3	20.4	20.4	19.2	18.6
R5年度	19.7	19.9	20.8	21.6	23.9	23.7	22.7	20.3	20.1	19.7	19.1	19.0
R6年度	19.5	19.3	21.0	23.0	24.3	24.8	23.5	22.8	20.2			

(単位：万/ml)